

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	提案機関名	農業振興課専門技術担当
18		
※記入不要		
要望問題	ハウスみかんの安定生産に向けた樹体栄養診断	
要望問題の内容	【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】	
	<p>ハウスみかんでは、今年度の早期加温ハウスのように着花、出芽が不安定となり、生産に大きな障害になることが多い。その対策として、芽さし試験や結果母枝の硝酸態窒素測定による加温適期の把握を行ってきた。しかし、ハウスミカンを行ってから15年以上経過した樹が多く、樹勢の低下等の要因で加温適期の判断だけでは、生産の安定につながらなくなっている状況が見られる。</p> <p>そこで、現在、露地みかんで研究中の樹体栄養診断技術をハウスみかんに応用して、樹体栄養の面から、加温適期・着果負担等を予測・管理する技術を開発して欲しい。</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内	
研究対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他	
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ <input checked="" type="checkbox"/> ②根府川試験場） ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（ <input checked="" type="checkbox"/> ⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所 根府川試験場
部 署	根府川試験場
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合) カンキツの高品質・安定生産のための施設化栽培法の確立 ハウスミカンの安定生産に向けた樹体栄養診断法の確立（項目化）
対応の内容等	<p>着花量を母枝中の C/N 比で推定する方法がすでに大分県で提案されていますが、全国的に見ると、樹体栄養診断技術として確立しているとは言えないと考えられます。また、C/N の簡易分析手法に適当なものがなかったため、現地での簡易診断技術の開発にも至っていません。</p> <p>本県では、全国的には少ない春枝母枝型の後期加温型栽培が主力であり、神奈川県独自の診断手法について検討する必要があると考えられます。また、より一般的な夏枝母枝型の早期加温型栽培を中心に行っている湘南農協ハウスみかん組合では、ここ、数年来、普及センター及び当該とともに、母枝中の硝酸態窒素濃度による加温時期の推定方法の確立に取り組んでおり、新たな技術を導入する意欲が高いことが伺えます。また、これらの作業の中で着花量を予測する指標を求める声の大きいことも認識しております。</p> <p>県内のハウスミカンも、市場価格の低迷から徐々に売上が低下し、栽培も縮小傾向にある一方で、今後の柑橘産業の中心となる後継者の多くが、ハウスミカンを中心とした経営を築いていることも重要視する必要があると考えられますので、関係機関及び生産者とともに課題の整理を行い、本課題に取り組む準備に入りたいと考えています。</p>
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	